

普及活動情勢報告（平成 28 年 12 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

収量向上に向けて！ ～インゲン現地検討会の開催～



現地検討会の様子

11月25日、JA土佐くろしおインゲン部会を対象に現地検討会を開催し、15名が参加しました。本年度行う炭酸ガス効果の実証試験やスワルスキーカブリダニをはじめとする天敵を用いたIPM試験内容を説明し、今後の管理として光合成を意識した摘葉や少量多かん水を促しました。また、管内では取り組みの少ない1条植えを実際に見てもらい、2条植えとの特徴を比較するなど増収に向けた情報提供を行いました。

参加農家からは、炭酸ガス効果や効率的な仕立てへの関心が見られ、農家同士の栽培状況等の意見交換を行う場を作ることができました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して、部会への情報提供や技術の検討を行い増収に向けて支援していきます。

安心安全なインゲンを出荷しよう！ ～インゲン部会出荷始め総会～



GAPの必要性を説明

11月29日、JA土佐くろしおインゲン部会が出荷始め総会を開催し、19名の生産者が参加しました。農業改良普及課は、安心安全なインゲンを生産するためにGAP点検の必要性を説明し、GAP点検シートを用いた点検を行うよう促しました。

生産者からは「点検シートができてから毎年取り組んでいる」「良い価格で取引してもらえるように気を付けなければいけない」などの声がありました。

農業改良普及課は、JAと連携して前作のGAP点検シートの回収および取りまとめを行い、今後の中間検討会で結果を返して改善点を提案することで、生産者のGAPの取り組みを支援していきます。

2 億円突破よ、再び・・・！～ミョウガ出荷反省検討会～



出荷反省検討会の様子

J A津野山ミョウガ部会の出荷反省検討会が 12 月 2 日に開催され、夫妻での参加もあり、18 名の生産者が参加しました。

農業改良普及課は、平成 29 年の栽培が年明け後始まるため、ミョウガ栽培で重要となる厳寒期の温度管理等について説明しました。

生産者からは、平成 29 年の栽培が間もなく始まるため、厳寒期の温度管理に対する関心が見られ、意見交換を行う場となりました。

農業改良普及課は、今後とも J A と連携して、津野山地域におけるミョウガ、の安定生産に向けて支援します。

信頼される産地に！～JA 津野山シシトウ部会出荷反省会の開催～



出荷反省会の様子

出荷反省会が 12 月 15 日、営農センター輝で開催され、23 名のシシトウ、甘長トウガラシの生産者が参加しました。

会では今年度の栽培・出荷を振り返るとともに次作に向けて、高温期の障害果対策や出荷体制の改善等について協議を行いました。

農業改良普及課は、天敵の活用、青枯病抵抗性台木の試験結果について説明しました。生産者からは、天敵の有効な使い方や台木の導入コストに対して質問が出されました。

農業改良普及課は、今後とも J A と連携して、津野山地域におけるシシトウ、甘長トウガラシの可販果率の向上に向けて支援します。

キュウリの安定生産に向けて ～現地検討会を開催～



説明する普及指導員

12 月 7 日、須崎市内現地圃場でキュウリの生産者 25 名が参加し、環境制御技術、IPM 技術の現地検討会を開催しました。環境制御技術の基礎である温湿度管理についてと実証試験の途中経過、スワルスキーカブリダニ等の天敵利用方法について説明しました。

生産者には温湿度管理がキュウリの光合成や転流、呼吸にどのように影響しているのか、今後どのように管理していったらいいのか理解されました。また、天敵についても害虫のミナミキイロアザミウマと天敵の生態を知ること、効果がある農薬散布や天敵の放飼時期の検討が必要であるといった声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後もキュウリの安定生産に向けて環境制御技術と IPM 技術について、現地検討会や勉強会を通じて普及に取り組み、農家のレベルアップに繋がります。